

ひと・まち広島未来づくりファンド

第16回(平成30年度)助成団体の活動成果について

令和元年5月11日(土)に開催の成果発表会にて、各団体による活動成果の報告が行われました。

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助 成 団 体 部 門	八木ひよっとこ踊り同好会	高齢者健康維持と笑いを地域へ広める	5万円
	宿題やつつけ隊	子どもの放課後学習支援	4.8万円
	計 2団体		9.8万円
ま ち づ く り 活 動 発 展 助 成 部 門	佐伯文化芸能振興会	地域課題かいけつ紙芝居プロジェクト	24.7万円
	真亀一丁目花の会	団地を花いっぱい	8.5万円
	みんなの寺子屋	昔ながらの遊びをしよう!!	5万円
	アリスガーデンパフォーマンス 広場事業実行委員会	広島インディーズの祭典 INDIKET' 18	23万円
	あとぴっこ親子の会「みんなで」	講演会「アトピーフォーラム in 広島」の開催	15.3万円
	比治山の森を守り育てる会	豊かな自然を取り戻そう、ゴミの無い比治山へ	30.2万円
	白い杖SOSシグナルをひろめる会広島	SOSシグナルの普及啓発活動	20.5万円
	ひろしまSUPクラブ	MIZBE活性化大作戦	44.6万円
	特定非営利活動法人 NPO狩留家	“狩留家なす”と“花”の町づくり	21.6万円
	子育て・親育ち	育児と食事は生きる基本 共に命のお世話をす る	41.2万円
	特定非営利活動法人 チャリティーサンタ広島支部	経済的に困難な家庭に、サンタクロースの思い 出を	20.4万円
	広島市防災士ネットワーク	市民防災講座	13.5万円
	絵本たねまき塾	絵本コンシェルジュ隊・地域デビュー！	13万円
	夢コレクション広島実行委員会	夢コレクション広島を開催しよう	26.9万円
	計 14団体		308.4万円
	合計 16団体		318.2万円

団体名[八木ひょっとこ踊り同好会]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	「高齢者健康維持と笑いを地域へ広める」
②実施期間	平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：八木ひょっとこ踊り同好会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ①ひょっとこ踊りは、宮崎県日向市に由来する楽しい踊りで、赤い着物に白いフンドシ、豆絞りの手拭を被ったひょっとこが軽快なリズムに乗って、手足首を使ってコミカルに踊り、自然と笑いを誘う活動を行っている ②活動に於ける「八木地域内及び広島市近郊を含めた」養護施設等への演芸慰問等を計画し、高齢者を始めとした皆さんに笑いの提供をする次の活動をしています。 ・H30. 4.22 みどりが丘「葉山ふれあい発表会」への出演 ・H30. 5.20 久地第三部長寿会出演 ・H30. 6.17 府中町山田地区敬老会出演 ・H30. 8. 4 八木ふれあい盆踊り出演 ・H30. 8.11 ひろしま盆ダンス出演 ・H30.10.13 ひろしま市民交流フェスタ出演 ・H30.11.18 八木学区ふれあい祭りへ出演 ・H30.12. 1 八木地域演芸連合内演芸会と忘年会（梅林学区） ・H30.12.22 へさか福寿苑クリスマス会出演 ・H31. 1.13 上楽地自治会新年宴会出演 活動の内、台風21号及び広島県豪雨災害発生のため次の2件取止めた。 ・8/20 八木県営緑ヶ丘災害復興祭 ・9/9 可部東大町屋敬老会
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1. 現状活動での課題は特に見当たらないが、会員の高齢化による退会対策とした若返りを考慮した踊り方への改善と楽しめる親睦行事を取り入れ志気を挙げて行きたい。 2. 追加活動としては、八木地域演芸サークル連合会(八木地域な内の各演芸団体を取り纏め)を設立し慰問等時での発表演目をひろげたボランティア活動を実施している。

団体名[宿題やっつけ隊]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子どもの放課後学習支援
②実施期間	2018 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：宿題やっつけ隊 協力：五日市・五日市中央公民館、佐伯区社会福祉協議会ボランティアセンター
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 週3回、無料の学習会を実施 子どもは小学生を対象 講師は地域のボランティアから構成 会員数 ・子ども 50 名 ・先生 15 名 会場 ・毎週木曜日…五日市公民館 ・毎週金曜日…五日市中央公民館 ・毎週土曜日…佐伯区役所別館
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 子どもの人数に対して、先生の人数が少ないことが大きな課題。 今後は大学へ訪問し学生の募集を図っていく。 子どものやる気を維持していくためには、褒める指導だけでなく、 ご褒美シールを取り入れることが効果大であった。 努力する楽しさを伝えていき成績向上に努める。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	地域課題かいけつ紙芝居プロジェクト
②実施期間	2018 年 5 月 31 日 ～ 2019 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：佐伯文化芸能振興会、共済：広島市五日市公民館 協力：一般社団法人まち物語制作委員会 講演：広島市佐伯警察署、広島市
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1 紙芝居制作 ・なりすまし詐欺に対する注意喚起を呼びかけるオリジナル紙芝居制作。 ① 内容：なりすまし詐欺の最新の手口を調査し、その手口を紹介するオリジナル紙芝居のシナリオ、作画をプロの作家に委託し制作する。 ② 規格：A2サイズ、カラー、厚紙裏張り補強、1作品 2 紙芝居読み手育成講座の開催 (1) 第1回読み手育成講座 ① 開催時間：2018年9月10日、21日、28日 午前10時～正午 ② 開催場所：広島市五日市公民館 ③ 内容：特殊詐欺の現状を学び防犯紙芝居の読み方を練習・習得する。 1日目：参加者65名、警察、防犯協会等による最近の犯罪状況についての話 2日目：参加者36名、紙芝居の歴史、文化的意義について、紙芝居の実演 3日目：参加者30名、紙芝居の実習、認定書授与 (2) 第2回読み手育成講座 ① 開催時間：2019年2月8日、15日、22日 午前10時～正午 ② 開催場所：広島段原ショッピングセンター ③ 内容：特殊詐欺の現状を学び防犯紙芝居の読み方を練習・習得する。 1日目：参加者80名、警察、防犯協会等による最近の犯罪状況についての話 2日目：参加者17名、紙芝居の歴史、文化的意義について、紙芝居の実演 3日目：参加者17名、紙芝居の実習、認定書授与

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ① 2回の講座(6日間)で延べ245名の参加を得た。そのうち、32名もの方に防犯紙芝居読み手認定書を授与し、地域の中に紙芝居師を送り出す事ができた。 ② 講座の様子は新聞(中国新聞、毎日新聞)テレビ(RCC、ケーブルテレビ)で大きく紹介された。 ③ 広島県警、広島市、広島市消費生活センターなども大きな関心を示し、アドバイザーとして積極的に講座に参加していただいただけでなく、今後、イベント等で受講生の活用を検討することとなった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ① 2回の講座(6日間)で延べ245名の参加を得た。とりわけ各回の初日に行った警察による特殊詐欺の現状を紹介する回には150名近い参加を得た防犯に関する現状を周知できた。多くの防犯紙芝居読み手を地域に送り出す事ができ、広島県下に300人の紙芝居師育成に大きく近づいた。 ② 事業費の不足を賄うため企業に協賛広告をお願いするなどした。 ③ 事業費が不足したため、地域の魅力発信のためのオリジナル紙芝居が制作できなかった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ① 佐伯区、南区以外の地域で読み手育成講座を開催経費確保のため講座の有料化、公的機関との共催を考える。 ② 育成した防犯紙芝居師の活用を地域に働きかける。 ③ 紙芝居公演を充実したものにするため、防犯紙芝居だけでなく、地域の物語(民話・昔話)も紙芝居化し併せて講演会を開けるようにしたい。

注意: 助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	団地を花いっぱい
②実施期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 真亀一丁目花の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1 花づくりを通じて地域との交流 (1) 地元真亀保育園児と花の植え付け(3年目の継続行事) ・寺迫公園にペチュニアとパンジーを植える。(計 500 株) 5/17 ・共同管理花壇にサンパチェンスとポーチュラカを植える。(計 160 本) 6/22 (2) 高陽絆まつりが豪雨災害で中止となる 祭り会場に提供するため、サルビアと日日草を計 170 株(プランター34 鉢)会員の自宅で育成したが、祭りが中止となり、プランターを地元真亀小学校、真亀保育園、地元寺院(円正寺)に提供した。 花づくりは地味な活動と思うが、花を飾って町を元気にきれいにしようという我々の活動は、今年で 8 年目を迎え、町民の理解も深まり、皆さんから「いつもきれいなお花を見せてもらってありがとう」という言葉をかけられ、憩いと潤いの拠点となっている。 2 花壇の運営 (1) 共同管理花壇 夏季(5 月~11 月)サンパチェンス 60 株、ポーチュラカ 500 株 冬季(6 月~12 月)葉ボタン 350 株、パンジー350 株 (2) 個人管理花壇 7 ブロックのそれぞれ独立した花壇に、管理者を決め自主管理している。 各自が、マリーゴールド、ペンタス、ペチュニア、サフィニア、葉ボタン、パンジー、ビオラ、アリッサム等、季節ごとに開花した苗を買い付け、年間を通じていつも花が咲いた状態の花壇を維持している。 3 法面の除草(10 年目の活動) 傾斜地の法面約 4000 m²の除草を、年 4 回、10 年継続してボランティアで実施してきた。町の美観と害虫対策で、葛かずら退治からスタートしたものであるが、この活動は、広島市の除草費用削減に多大に貢献したものと自負している。 4 空き家の除草と剪定 今年も、会員 10 名の参加で、空き家の除草と剪定を実施し、家主はもとより隣接するご近所から感謝された。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1 私たちの花壇は、どこよりもきれい 専門家(元因島フラワーセンター所長で、現在は公民館で花づくりの講師をされている松島省三氏)から、安佐北区はもとより近隣で一番「手入れが行き届いたきれいな花壇」というお墨付きをもらっているが、町民の皆さんからも同じような評価をされている。 2 広島市の道路法面の除草費用削減に寄与 傾斜地の法面約 4000 m²の除草を年 4 回、10 年継続してボランティアで行ってきた。この活動は、町内の環境対策だけでなく広島市の除草費用の削減にも寄与したものである。広島市の委託単価は知る由もないが、H m²で助成していただいたが、我々の試算では助成額とは比較にならない相当な額を広島市に貢献したと考えている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1 花壇の見栄えを良くするように工夫した。 花壇は目抜き通りに面しており、毎日たくさんの人の目に触れる。除草などの手入れはもちろん花壇を通行者にアピールするように、色の配置、花の向き、配列など植え方を工夫した。 2 今年(30 年度)の夏は、サンパチェンスの猛暑対策で苦勞した。 日除け防止として、遮光ネットを 1 カ月継続して取り付けざるを得なかったため、花壇の見栄えが悪くなった。しかも今年の夏は、朝夕毎日 2 回の水やりをしても枯れるものが発生した。サンパチェンスは派手な見栄えの良い花であるが、手がかかるので夏場に強い花に変更する考えである。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1 H m²の助成金が無くなるので、次年度からは花の種類や数量の見直しをせざるを得ないと思っている。 2 傾斜地の法面の除草は、会員の高齢化もあり、今後も継続していくのは難しくなっている。 3 資金面から、花苗の自家育苗を検討しなくてはならないと思っている。 しかし、これにも技術と経験不足、育苗場所、種代など問題も多く抱えており、かえって費用増加にも成りかねないと危惧している。 4 私たちの活動は、「花づくりを通じて町を元気にきれいにする地域起こし活動」として、町内の皆さんに評価されている。運営には上記のような問題を抱えているが、ここで此の灯を絶やしてはいけないと思っている。これからは会員の皆さんと相談しながら身の丈に合った活動を継続していくこととしたい。 5 H m²の助成金が本当に効果的に使用されているのか、現地の確認をする必要があると思います。プレゼンテーションの良し悪しではなく、助成金は一発勝負でなく継続的に効果的に使われる仕組みになっているかどうかではないでしょうか。

団体名[みんなの寺子屋]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	昔ながらの遊びをしよう!!
②実施期間	2018年 4月 1日 ～2019年 3月 3日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催；みんなの寺子屋 共催；ゲストハウス・ラッピーラッピー
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ★毎月1回、ゲストハウス・ラッピーラッピーで日本の伝統的な季節行事を英語と日本語で楽しく企画を実施。 会場；ゲストハウス・ラッピーラッピー。参加費；¥500茶菓子付 実施例；4月花祭り、5月母の日、6月メッセージ作り、7月七夕、9月秋祭り紹介、等 ★子どものコーナー遊びを提供 5月保育まつり《リサイクル工作》会場；尾長小学校・連携；保育問題研究会、参加費1人¥300。 7月アースキャラバン《被爆詩集紹介》会場；ハノーバー庭園、実費。 11月国際交流協力の日《活動報告コーナー展示》会場；広島国際会議場と周辺。 11月障害児子ども祭り《リサイクル工作》会場；出島の支援学校 参加費1人¥300 ★8月平和連携と協力・交流行事実施。会場；平和公園と周辺・広島仏教学院。 連携団体；SEEDS-INDIA、ソルトホーム、広島仏教学院、宗教者平和会議、ピースプレーヤーズ・ソサエティ、国際交流協力課、被爆者団体、等。 南インドより平和活動家を招聘し、他宗教間のセッション・講座に協力 平和記念式典にスリランカの方を案内。他宗教団体合同の灯ろう流しに協力、等。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ★子育てと親を含む育ち合いの一端を担えた。 ★学生ボランティアも予想以上に参加が有った。 ★多文化・多宗教間の対話と交流に広がりがあった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ★企画内容は全て実施できたが、ゲストハウス・ラッピーラッピーでの企画は参加者が少なかった。 ★子ども祭りへのボランティア参加は多く、学生・親共に育ち合いと相互交流の場を提供できた。 ★今年から、国際交流協力の日で活動展示を始めた。展示内容は今後改善の必要が有る。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ★引き続き参加者やボランティアを増やせる工夫を続ける。 ★今後の企画内容を再検討する。 ★PR を充実させる。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	広島インディーズの祭典 INDIKET' 18
②実施期間	平成 30 年 6 月 1 日 ～ 平成 31 年 2 月 10 日
③実施主体	主催：アリスガーデンパフォーマンス広場事業実行委員会 協力：広島市中央部商店街振興組合連合会、(株) ステージユニオン広島、ライブ楽座、cocoro-to プロダクション、NPO法人セトラひろしま 事務局：NPO法人セトラひろしま内
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 参加アーティストの公募及びイベント「INDIKET' 18」、「IndikeTV」の実施 ●「INDIKET' 18」☆日時：2018 年 9 月 16 日(日)、17 日(月-祝) 2 日開催 ☆会場：広島市中区アリスガーデン、並木通り ☆対象者：不特定多数 ☆内容：自主制作作品のマーケットとプロモーション・ステージ ◎エントリー部門〈音楽部門・アート部門・パフォーマンス部門〉 参加アーティスト：音楽部門/23 組 パフォーマンス部門/5 組 アート部門/11 組 ●音楽部門&パフォーマンス部門・プロモーションライブと CD 販売等物販：会場 アリスガーデン ●アート部門（アートマルシェ” INDIKET in Namiki”）作品販売：会場 並木通り歩道上*並木通り商店街振興組合と合同主催 ●IndikeTV(インディケーター) 【イベント終了1ヶ月後のポストイベント】Indeket2018 選抜アーティストと招待プロモーターとのマッチング・イベント。プレゼンテーション・ライブと招待プロモーターによる講評 ☆日時：10 月 19 日(金) ☆会場：ライブ楽座 ☆MC：石澤良一、TOMOT ☆選抜アーティスト：Alice Fiest Chance 年間グランプリ/佐々木隆宏、INDIKET プロデューサー推薦/飴色りぼん、夢番地推薦/リユニオン、キャンディープロモーション推薦/sharken (シャーケン) a.k.a. 柴犬 ☆参加プロモーター：夢番地、キャンディープロモーション

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 【来場者数】 ●アリスガーデン会場 来場者数(音楽部門&パフォーマンス部門) *16日/3,600人、17日/3,200人 ●並木通り会場・アート部門(アートマルシェ”INDIKET in Namiki”) 来場者数: 16日/4,800人、17日/4,400人 実績として、選出された支援アーティストの中からプロモーターが企画する大型音楽イベントへの出演を指名されるアーティストもいた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ほぼ当初計画どおり実現できた。昨年以上のアーティストの参加と、多くの来場者を迎え、並木通りでのマルシェも好評だった。街のにぎわいの仕掛けとしてまちづくりに貢献できる内容となった。 IndikeTV(インディケーター)では、招待イベンターが広島インディーズシーンの熱と層の厚さをコメントした。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】 ・バンドの時は音量が心配だった。来年からは、電子ドラムとラインで対応していくかが課題だ。公共のオープンスペースではいつもこの問題が生じるが、公共のオープンスペースでの音量表現的なルールというか、表現倫理が必要かも知れない。 ・事務局体制の強化。表現者支援のインパクトのある方法の開発。より一層のメディアとの連携、プロモーターとのさらなる連携強化。 【展望】 ・並木通りでの展開等、より街のにぎわいに資するマルシェのかたちを確立させる。 ・「街文化=マチカルチャー」の層を掘り起こし、パフォーマンス部門のコンテンツに、アーバンスポーツ系のショーやフーズバトル等を取り込んで発展させる

団体名「 あていっこ親子の会「みんなで」 」

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	講演会「アトピーフォーラム in 広島」の開催
②実施期間	平成30年 10月 7日 ~ 年 月 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) アトピーフォーラム in 広島 実行委員会 あていっこ親子の会「みんなで」
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 県内外から講演者をお招きし、参加者も多数の参加が見込まれる 事から、半年前から準備を始めました。実施日は、参加者の不便 等を考慮し、季節の良い10月の連休中日を利用しました。 場所は、比較的大きな会場が必要であった為、候補を絞り 込んだ結果、最終的に「R文化センター」の会議室2部屋 を借りる事になりました。又、小児が自由に遊べる部屋を会場の 横に借りた事で、会を円滑に進める事が出来ました。 あていっこ親子の会「みんなで」では、日頃、交流を中心に 茶和会等の催しを定期的に行っていますが、今回のイベントは 広島県を始め、遠くは北海道、東京、大阪等からも参加し て頂き、大きな反響を得る事が出来ました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 本講演会は、アトピー性皮膚炎の正しい知識と治療方法について知りて頂いた上で、共に考えていく場を提供するものです。その事により、下だちにアトピー患者が減るという期待はあきませんが、年々増えている重症の患者を今以上増やさない為にも、このような地道な活動を通し、数ヶ月の不安や悩みを抱えられている方々の一助となる事を期待しております。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 会場の定員が予定より80名に対し、成人の部：110名、小児の部：50名と、当初想定していた程度の参加者に来て頂いた。講演者、スタッフも含めると会場が少し狭く感じられる場面もありましたので、次の会場設定に活かしたいと思います。講演会自体は、あらかじめ準備を念にしていた事もあり、比較的スムーズに進行出来ましたので、その事も踏まえて、来年以降更なる良い結果となる様にしていきたいと思います。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 上記にもありますように、会場選定は検討する必要性を感じておりますが、より多くの参加者があった場合、講演会としてきちんと問題無く運営、進行が出来るかはどの程度であるのかも考えたい事も必要です。 講演会以外に、参加者間でのコミュニケーションや、イベント開催等も今後行いたい事項ではありますが、何ぶん人手が足りていないのが現状ですので、会の運営に賛同頂けるスタッフの増員に力を入れていきたいと考えております。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	豊かな自然を取り戻そう、ゴミの無い比治山へ
②実施期間	2018年 5月 12日 ～ 2019年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 連携した団体：NPO法人ひろしま人と樹の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 【活動地域】 広島市南区比治山公園 比治山の中でも比較的人の集まるまんが図書館や広島市現代美術館周辺の山肌で活動 【実施方法】 ・ゴミ拾い...毎週末、来れる人で集まって実施 - 特に告知をしなくても、必ず誰かは来て作業をしている - 拾い集めたゴミはまとめて広島市環境局に回収して頂いた ・下草、笹刈り...1シーズンに1回を目安に実施 - 笹はすぐに生えてくるので地面を踏むという地道な作業を毎週末のゴミ拾いと同時に実施 ・立ち枯れ樹木の伐採...年間3回実施 - 伐採作業はNPO法人ひろしま人と樹の会の方々にご協力頂いた - 伐採した木は分割してまとめ、広島市環境局に回収して頂いた ・竹の伐採...年間4回実施 - 御便殿広場西側の竹林を整備、住宅と隣接しているので事前に作業の案内をするなど地域住民に配慮しながら実施 - 伐採した竹の中でまだ丈夫なものは竹クラフトのワークショップで使用 ・竹クラフトワークショップ...幼児～小学生を対象に2回実施 - 伐採した竹を再利用して12月に手作り門松のワークショップを比治山とpatagonia広島店で開催 - 大きな門松は広島市まんが図書館と段原イオンの正面玄関に年末年始、飾って頂いた ・研修...新潟市へNPO法人アキハロハスで研修を実施 - 里山整備の方法や、行政・地域との関わり方を学ばせて頂いた - 新潟市秋葉区役所を訪問し、秋葉区長や職員の方々と面談させて頂いた ・西日本豪雨災害比治山被害報告書を各機関へ提出 - 2018年7月に起こった災害の被害調査を実施、また近隣住民の方々に被害への不安等アンケート調査も実施した

④実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 週末、ゴミ拾いなどの作業をしていると「きれいになったね」と地域の方々に声をかけてもらうことが増えた。 また、鬱蒼としていた山肌をきれいに整備したことで夏の期間に地域の子も達(と思われる)が、木にカブトムシを獲る仕掛けをしていた。整備前には考えられないことで、整備したことで子ども達が身近で自然に触れることができるようになり始めている、という事と広島市の中心部に住む子ども達は自然を求めているがまだまだその環境が少ないということが改めて認識できた。
⑤目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1年目に計画していたことはほぼ達成できた。失敗した点として、季節毎にイベントを設けるということが難しかった。理由として、夏の豪雨や秋の台風、冬のインフルエンザ流行等、季節によって活動が難しい時期があった。 これを来年度はスケジュールマネジメントに活かしていきたい。 工夫した点は、伐採作業以外は子どもも一緒に参加できる環境をつくったこと。子育て世帯は、子どもを預けて参加するということが現実なかなか難しいので、整備作業やイベントも親子で参加できるものを心掛けた。おかげで、親子で自然や森林整備に興味を持って頂ける機会を多くつくれた。
⑥今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】 地元の方には少しずつ“親子で週末に比治山で整備している人達がいる”という認識をして頂き始めたが、まだまだ賛同や協力といったところまでは進めていない。もちろんコツコツと継続して、時間をかけて信頼関係を築くことは重要であるが、こちらがアプローチしていくアクションも同時に必要性を感じた。テーマに掲げている「ゴミのない比治山へ」はゴミ拾いだけでなく、これ以上ゴミを増やさないという活動も同時に重要となるので、30年前の広島市現代美術館の建設時に整備された山肌が、それ以降放置され続け鬱蒼とした森に不法投棄や生活ゴミが散乱し、比治山に棲みついたカラスが近隣住民の悩みのタネになっているというこの悪循環を断つためにも、地域との連携は必須である。 比治山の麓にある段原公民館や子ども会、保育園・幼稚園・小学校と連携して比治山の豊かな自然とそれらが守り活かされていない現状を認知して頂く場をつくっていくことが今後の課題だと考える。 【今後実施したい追加活動】 整備作業や研修、地域との交流はコツコツと継続していき、追加活動としては、比治山の四季折々の散策会を他団体と共催したい。共催の目的として、他団体との交流(情報交換や意見交換)ができることと、それによって視野が広がり、活動の幅が広がれることが挙げられる。今年度の予定として、森メイトさんやひろしまSUPクラブさんとの交流を計画中。 また、昨年度新潟市へ研修に行かせて頂いたことで多くの学びとつながりを持つことができた。今年度は全国でも県をあげて環境整備に取り組んでいる高知県への研修を検討中。広島と同じ観光地であり、海も山も川も豊かな高知県がどのように行政と市民が協力しあいながら、また地域を巻き込んで整備活動をしているか学びたいと考えている。 比治山は元々国が所有しているが、それを広島市が借りて南区が維持管理しているので、比治山で活動を継続していくにあたって行政との連携は必須。 観光が大きな資源を占める広島に、子ども達の健全な成長にとって自然に触れることがどれだけ重要であるか、街なかに身近な自然があることがどれだけ地域住民にとって大切であるか、そのための維持管理にボランティアの手が必要であるということを広島市の職員には引き続き伝えていく。 そのためにも、私たちの活動が認知されること、賛同されること、応援して頂くことが課題であると同時に起こしていくべきアクションの核になる部分だと考えている。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	SOS シグナルの普及啓発活動
②実施期間	2018 年 4 月 1 日 ～2019 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：白い杖 SOS シグナルをひろめる会広島 協力：広島市社会福祉協議会海田町社会福祉協議会、古田・真亀・瀬野公民館、広島市市民交流プラザ、佐伯文化芸能振興会、広島電鉄（株）
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 真亀公民館祭り：点字体験コーナーで点字体験と音あてクイズやアイマスク体験を行い、ゲームを通して視覚障害者の理解を深める活動をした。 日本銀行跡地にて「佐伯文化芸能振興会」様のイベントで説明をした。 佐伯区社会福祉協議会主催音訳ボランティア養成講座にて講演 西区社会福祉協議会主催音訳ボランティア養成講座にて講演 佐伯区「あんず祭り」「佐伯文化芸能振興会」様のイベントにて説明 赤い鳥童謡発表会（県民文化センター）クリアファイルにチラシと説明文を入れて 500 名に渡す。 広島電鉄「市内電車祭り」（千田町本社にて）説明をする。 サンキューカードの配布開始 真亀公民館「サマースクール」触れ合いゲームなどにより視覚障害者の理解を深めるための講演とゲームを行う 広島バス祭りにてステージで説明をした。 ノートルダム清心中学部 18 名の方にアイマスク体験によるゲームとブラインドテニスを行い、講演をした。 古田公民館祭りふれあいゲームを通じて視覚障害者の理解を深める活動をした。 市民交流フェスタに参加、ステージ発表とブースを借りて古田公民館と同じように来場客に説明をした。 可部公民館でクリアファイルにチラシと説明文を入れて配布した。 西区区民祭りでクリアファイルにチラシと「こんな一声こんな援助が助かります」を入れて配布した。 中広中学校・天満小学校・大芝小学校・佐伯区観音台小学校で講演をした。 古田公民館「あははクラブ」にて「災害と障害者」の講演 RCC ラジオ「チャリティミュージックソン」参加 24 日レクト、25 日ゆめタウン広島店にて音の出る信号機の募金活動をした。 瀬野公民館「せせらぎ大学」にて講演をした。 東区社会福祉協議会主催「ちゃいちゃい祭りに参加パフォーマンスとゲームを行い理解を深める活動をした。 広島市社会福祉協議会主催「点字ブロックの日」の啓発活動を五日市駅前にて行った。 佐伯区区民文化センターにて行われた「ファッション賞・佐伯文化芸能振興会」のイベントで説明をした。

	5月4日フラワーフェスティバル マーガレットステージに出演予定 イオン府中店にて毎月11日「イエローレシートキャンペーン」に参加（活動資金獲得のため） ノートルダム清心中学・中広中学・天満小学校・大芝小学校・佐伯区観音台小学校対象者は生徒です。
⑤実施効果	（広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など） 認知度も少しずつではあるが声をかけてもらえる頻度が増えたので高まっていると感じている。 声のかけやすい環境にすることで、点字ブロックを見失い迷っているときや、横断歩道から外れて、交差点に入りそうになっているときに、一声をかけていただいて助けていただければ、私達も安心して外出できるようになる。 各区で活動のお手伝いをしていただける協力会員を募集をして10名が加入した。合計23名となる
⑥目的の達成状況	（当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など） サンキューカード5000枚を6月から配布を始めて、3月でなくなり、受け取ってもらった人にもよくわかると喜んでいただいた。 配布方法 1. 会員が外出をした時、誘導をして援助をしていただいた方に渡す。 2. 電車・バスなどで席を譲ってくださった方に渡す。 3. 学校で講演をしたときに説明をして生徒さんに渡す。 クリアファイル3点セットを目標6000枚・中間報告時目標3000枚（豪雨災害によるイベントの中止により変更）現在達成済みです。最終は4000枚の予定です。 工夫をしたこと 小中学校の福祉学習で「白杖 SOS シグナル」を知っている人が少なかった。 広島市社会福祉協議会様より広島市内全校216校にチラシを配布していただいた後は、90%以上となった。 イベントがない場合は、講演内容を提案して講演をした。
⑦今後の課題・展望	（上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など） 一般の方・特に高齢者の方は点字ブロック、白杖の認知度が低い。 出来なかったこと 資金不足と準備の遅れにより、「白杖の日」の活動ができなかった。 （7月以降の会議が延期となり、話し合いも進まず、中止とした） 今年は「白杖の日」を必ず実行します。 今後の活動に力を入れて行きたい事 4年前と昨年の豪雨災害時に、避難所には生活しづらいとのことからほとんどの視覚障害者が避難所にはいなかったそうです。 「障害者と避難所生活」についての理解を深める活動をしていきます。 中学生以上での講演には話していきたいと思っています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	MIZBE 活性化大作戦
②実施期間	2018 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日
③実施主体	主催 ひろしま SUP クラブ 連携 フラワーフェスティバル実行委員会 社団法人広島青年会議所 横川商店街 広島中振連 えんこうさん実行委員会 放課後デイサービスミリミリー 後援 国土交通省 広島市
④内 容	4/8 Hiroshima SUP City Grandprix(仮称)市内一周トライアルレース開催 38名 5/3 フラワーフェスティバル MIZBEproject FF 実行委員会 川のパレード、体験会、SUP レース, SUP ヨガ等 169 名 7/19 大崎權伝馬とひろしま SUP クラブ新旧漕ぎもの交流会 17 名 7/26 ピースクルと都市型アクティビティツアーの実験 7/28 8/5 楠木大雁木清掃 7 名 原爆ドーム前雁木清掃 6 名 8/6 太田川灯籠流し灯籠誘導協力 中振連 8/12 横川 川 夏フェスティバル SUP 体験会 横川商店街 体験者 126 名 8/18 まちなかキャンプ SUP 体験会 広島青年会議所 68 名 他 9/3 発達障害児童 SUP 体験会 放課後デイサービスミリミリー 38 名 12/10 楠木大雁木清掃 4 名 2019 1/27 オーシャンアスリート荒木汰久治リスクマネジメントセミナー37名

⑤実施効果	いずれの活動も昨年以上にブラッシュアップしたので街の環境のユニークな活用法や楽しさを感じていただけたと思います。フラワーフェスティバルでは外国人体験枠をもうけて外国人、インバウンドの誘致にチャレンジしました。ホテルやゲストハウスへも集客を依頼し目標とした集客を達成することができ、外国人観光客に向けても体験型ツアーの目的地として広島観光の付加価値創出が見えてきました。また8月には3年ぶりに広島青年会議所の”まちなかキャンプ”に協力。大都市にもかかわらず自然と触れ合うことができる広島の魅力を子供達に伝えました。そして日本を代表するオーシャンアスリート荒木汰久治さんを迎えて海峡横断の体験談からトップレベルの安全に対する自己管理意識の啓蒙をしていただきました。
⑥目的の達成状況	昨年に引き続き行った広島青年会議所、横川商店街、発達障害児施設とのイベントは連携もよりスムーズになって、昨年以上の参加者がありました。早くも定着してきた実感がありました。また中振連さんに声をかけていただいた灯籠流しの誘導ボランティアは太田川と市民の繋がりを再確認し参加者はみな平和への思いを強く持てたことは大きな収穫でした。これからも全てのイベントにおいて、さらなる質の向上へと努めていきます。
⑦今後の課題・展望	今年度は天候に悩まされキャンセルになった活動もありました。水辺活性化の手応えは大きくなってきましたが、まだまだ行政を巻き込みカルチャーとして定着させていくにはいたっておらず、今後も地道な積み重ねが必要と感じています。 広島駅の観光案内所やホテルに設置させていただいた SUP CITY MAP の人気が高く 2000 部を追加印刷しました。英語版を希望する声が高いので今後対応していきたいと思っています。 残る目標である市内一周の国際 SUP レースに向けて取組みが加速しています。今後は川の事業者の協議会の立ち上げを行い連携を図るとともに、SUPクラブを一般社団法人化し行政を巻き込んで川からの目線から広島らしい街作りに挑戦して行きます。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	” 狩留家なす “と” 花 “の町づくり
②実施期間	平成30年4月1 日 ～平成31年3 月31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 特定非営利活動法人 NPO 狩留家 共催 狩留家地区社会福祉協議会、狩留家町内会連合会、 連携 狩留家郷土史研究会、広島市農協
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1. 狩留家なす収穫祭 実施時期 平成30年7月1日（日） 実施場所 広島市安佐北区狩留家町 3144 狩留家集会所 集合場所 JR 狩留家駅前 観光看板前 目 的 過疎な狩留家に人を呼び込む 結 果 330名の顧客が収穫祭に参加いただいた (第1回75名、第2回130名、第3回330名) 実施内容 ①狩留家郷土史研究会による狩留家の史跡巡り（2班に分けて実施） ②開会セレモニー ③狩留家なすの収穫体験 ④有名シェフによるメニュー提案：試食会⑤シェフによる調理提案 成 果 「狩留家なす収穫祭」実施の1週間後に7.6西日本豪雨災害があり NPO 狩留家の圃場は壊滅状況になりましたが、30年度は生産者の圃場面積が増へていたので前年と同額程度の出荷が出来ました。 30年7月、市内の高級ホテルで5年前の土石流災害のチャリティーイベントに狩留家なすが主要素材として使用される予定でしたが、7.6豪雨災害の為チャリティーイベントそのものが中止されました。 ある方が「狩留家なす」を救え！「NPO 狩留家を救おう」と立ち上がられ、日本で最高権威のレシピ会社・エピレシビに「狩留家なす」を大々的に登場させていただくことになり、ナショナルブランド化しそうです。 31年3月の広島県産農産物の合同商談会でも大好評でした。 2.” 花 “の町づくり 狩留家の町おこしの具体策の一つとして、“花”の町づくりで人を呼び込もうと呼びかけ、狩留家町民が呼応して、町民の花壇として自主的に数か所に手作りの花壇が出来始めました。 洪水ですべての花壇に泥水が流入し、今まで見たこともない雑草が生えましたが、有志の方々により泥かき、雑草取りが行われ、元の花壇になり始め、ベンチも設置出来ました。 成果 花壇作業が北部町内会の町民の地域活動になり始めました。 フェンスは費用が捻出できず未完成のままです。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 1 狩留家なす 狩留家の特産品として定着してきました。広島市特産品としても定着しそうになりました。特に今回、日本で最高権威のレシピ会社・エピレシビ様で多数のメニューを登場させていただくことになり、ナショナルブランド化になる可能性を秘めています。今後のマーケティング戦略を検討する必要があります。 2 “花”の町づくり 現在4カ所目の花壇が出来始めています。一箇所もなかった狩留家が徐々に花壇の町狩留家になり初めました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1 「狩留家なす」の特産品化が徐々に定着し始めましたが、市場の需要を満たす栽培が間に合っていない。今年の栽培目標は昨年対比200%を見込んでいます。それでも市場のニーズには追いつかないと思います。6次産業化の取組が遅れています。工夫していることは過剰なまでのパブリシティを露出させることで、プル戦略を取っていることです。 2 “花”の町づくり まだまだ全住民を巻き込んだ「狩留家」の活動になっておらず、「有志」の活動にとどまっています。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1 「狩留家なす」は今年も中国新聞、RCCなどでのパブリシティとしての露出は決まっていますが、エピレシビによるメニュー提案はインターナショナルメディアとして放映されます。このチャンネルに対するマーケティングは既存チャンネルのマーケティングではなくSMSによる情報発信が必要です。 高齢者集団のNPO狩留家にSMS対応が可能な若者を呼び込んだり、私たち自身にそのスキルアップが必要です。又マーケット拡大に伴う作付け量の拡大は如何にあるべきかを市や県レベルの政策ベースで検討する必要が出てきました。 2 駅前花壇は狩留家の顔としてフェンスで囲みたいです。 今まで3回NPO狩留家としてH㎡の助成金を頂きました。 1回目 水車小屋の建造 狩留家の町づくり活動の原動力になりました。 2回目 ①「狩留家なす」栽培用の什器、備品の購入 ②駅前花壇づくり費用 3回目 ①「狩留家なす収穫祭」運用費用 ②花壇づくり費用 を頂いてきました。狩留家はH㎡の助成金で町おこし活動の推進力になりました。 狩留家は①「狩留家なす」②「自然と史跡の探索会」③「花に囲まれた町づくり」④「郷土芸能の活性化」を基本に狩留家の町づくりを推進します。有難うございました。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	育児と食事は生きる基本・共に命のお世話をする
②実施期間	2018 年 4 月 1 日 ～2019 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 子育て・親育ち
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1. 「親子同士による共同保育」と「専門的知識を有するボランティアスタッフによるサポート」 対象：広島市に住む乳幼児とその親 実施方法：江波南の一軒家を拠点に週4日 朝9時から午後3時まで運営しました。 親子で集まり、乳幼児とお母さんと一緒に、朝のリズム体操・江波山へのお散歩・近所の路地へのお散歩遊びをおこない、乳児の離乳食指導を行った。親は共に昼食をとり、子どもは午睡をする。 親同志は食事の買い出しや、昼食作り、食事介助、子どもの見守りを当番制でおこなった。 「どの子も我が子」の気持ちで保育にあたります。日々の共同保育には、保育士2名が保育に携わった。・管理栄養士と一緒に調理担当者が昼食とおやつを毎日手作りで提供した。 活動地域：江波山のふもとの120坪の一軒家を拠点とした。保育に自然を取り入れるために、毎日江波山に散歩にいき、緑のなか、鳥の声に耳を澄ませ歩ける子はしっかり歩いた。 江波山は、自然豊かな山です。 ※拠点の引っ越し：2018年4月以降に舟入マンションから江波南の一軒家に転居 合わせて衛生面・安全面の改修や備品の追加購入をおこなった。 7月に町内会長さんほか、地域の方とお披露目会を行った。 2. 親の学びの時間、スタッフの学びの時間 ①親の勉強会を毎週木曜日午後1時に開催した。子育ての本や、育児のDVDを教科書にした。 ②保育経験豊かな講師(京都在住)を招へいし、育児相談会を毎月開催した。 親は具体的な育児相談(離乳食のすすめかた、睡眠のとりかた、体の柔軟性の育て方。子どもへの声掛けの仕方。適切な遊びの環境の整え方など)をおこなった。 認可保育園の保育士や、園長も参加した。 保育スタッフは日々の活動への助言をうけ、気になる発達の子どもの対応にアドバイスを貰った。 ※講師は、自然保育実践として京都で先駆的に取り組んだ実績のある元保育園長。保育経験は40年になる。 広島市の未来保育園・ようちん保育園のアドバイザーでもある。 3. 家族で参加できる 季節イベントの実施 父親たちは、毎月日曜日に集まり、江波山公園の清掃などにとりくんだ。 春にバーベキュー、秋に運動会、冬には大掃除、江波山の南風祭りには、出店をだした。 4. バザー活動 2か月に一度、いろいろな場所でフリーマーケットをおこなった。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 核家族で子育てをするお母さんの育児の孤独感と戸惑いは大きなものでありました。ご一緒に、散歩にいき、歌をうたい、離乳食をてべさせることで、子育ては楽しい物へとかわりました。また、子どもも体重がふえなかったり、夜寝なかったりする問題が解決され、どの子ども目を見張る成長をみせました。1歳になると、江波山へま自分で歩いて上がるように成長しました。 親同志は、子どもを間に、親戚のように親しくなり、毎日の生活の戸惑いや悩みを気兼ねなく相談できる間柄になりました。 ・子どもの少ない時代に「どの子ども我が子」の気持ちが育まれ、よその子供にも愛情が生まれます。 ・子どもは私たちの未来です。子どもを真ん中にすえ、大人が手をとって力をあわせていくことが「幸せな街作り」と思います。1日 20 人、ひと月 400 人の延利用者数になりました。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・設備 家屋の修正は無垢の桧の床、子供用シャワー、トイレ整備できました。 ・育児 子育ての大切な乳児期に、専門家の指導をうけ丁寧な子育てを行っていきました。衣類、食事、生活リズムについてしっかり取り組みました。 ・親の親睦 核家族で親戚のない多くの家族に、心通う友人ができました。 ・保育士 経験豊かな保育士から、育児の大切さ、この仕事の素晴らしさを学びました。一生の仕事として、打ち込んでいって悔いない仕事と実感しました。 ・調理 食材選びから、調味料選び、離乳食から移行食、幼児食と管理栄養士と共に工夫を続けていきました。お野菜一杯の食事を子供達はモリモリ食べます。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 子育ては、人として一番大切な事柄です。ですが、広島市は、街に緑がなく、コンクリートだらけ、子どもが自由に歩いて遊べる環境ではありません。緑を削って、サッカー場を作るような市政です。幼い子どもとお年寄りに大切な環境を作り姿勢が少ないと思います。 子育て支援として、いくつも「小規模保育園」を作っていますが、それらも企業主体の床はカーペット、お部屋はマンションの一室、お庭も不要です。預ける親が便利のようにバス停近くを推奨します。それでは、預けられる子どもにとって、狭い部屋で1日過ごすことが、成長するときに、よい環境でしょうか。乳児は心に幸せを感じるでしょうか。政令指定都市が、子どもの自由な空間を用意しないのは、何故でしょう。 まず、子どもには最適な環境（自然豊かで、自由に遊べる、安全で車の心配がない広いスペース）が必用です。子供のための環境を大人が作ることを広島市の課題にしてください。 私たちは、子どもに良い環境を提供し、お母さん達に子育ての支援を行っていきます。今後もこの活動を継続し、小学校の学童たちにも放課後の楽しい場所を作っていきたいと思います。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	経済的に困難な家庭に、サンタクロースの思い出を
②実施期間	2018 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：特定非営利活動法人チャリティーサンタ広島支部 後援：広島市、広島市教育委員会、公益財団法人ひろしまこども夢財団 中国新聞社
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 【実施方法】 主に一人親家庭や経済的困難を抱える家庭を支援する団体を通じ、取組について対象家庭に周知。各家庭より申込をもらい、その際に子どもが頑張っていることや、これから取り組んでほしいことなどをヒアリングし、訪問したサンタクロースが子どもにそれを伝えた。また、昨年は豪雨災害が起きたことから、被災した子どもたちにも同様の取組を実施した。 ボランティアは、通常のサンタ訪問の一貫に組み込むことで、十分な人数を確保した。 【活動地域・会場】 広島市内全域（ボランティアは市内の施設に集合し、市内の各家庭に向けて出発） 【対象者】 経済的な困難を感じている家庭の親子、豪雨災害で被災した親子

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 今回、ボランティアとして19歳～70歳の非常に幅広い人たち100人が集まり、子どもの貧困問題の現状について共有できたこと、それはひとつ大きな成果であったと考える。 また、実際に訪問した家庭においては、サンタクロースが、親しか知り得ない情報や、親から子どもに伝えたいメッセージを伝えることで、子どもは「いつも僕のことを見ていてくれたんだね!」と目を輝かせていた、という声などももらい、子どもにとっては生きる活力となっていると感じている。こうした思い出が、子どもや家庭が将来について不当な劣等感を抱かず希望を持つことにつながったと考えている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 経済的な困難な家庭については、目標として掲げた20家庭にはわずかに及ばない14家庭であったが、ひとり親家庭を支援する団体との実績を作ることができ、次年度についてはもっとアプローチする家庭を広げようと話をしているので、初年度としては及第点であったと考えている。また、関わるボランティアについては、当初目標の80名程度を上回る100名を集めることができた。これは地道に各大学などに足を運び、説明会などを実施したことや、道路使用許可をとった上でのチラシ配りなどが奏功したと考えている。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 〈課題〉 今回は助成金をいただけたことで、ボランティアの負担をなくして実施することができたが、今後、長いスパンで考えたときに助成金をもらわずにどう運営するか、という部分についてはしっかりと検証できていないので、次年度については一旦助成金をもらわない形でチャレンジしてみて、その後のことについてはまた考えてみたい。 また、昨年大きな災害があり、その後の継続した支援は必要だと思うので、もともと実施している、福島の子どもたちを招くキャンプに、被災地の子どもたちを招待するなど、復興支援の部分についても実施していきたいと考えている。

団体名[広島市防災士ネットワーク]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	市民防災講座
②実施期間	平成 30 年 4 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：広島市防災士ネットワーク 後援：クリップひろしま・公益信託広島市まちづくり活動支援基金
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 1、私達広島市防災士ネットワークは、平成 30 年 3 月まで毎月 1 回、中区地域福祉センター会議室を利用して研修会を開催してきた。これまでは会員対象の研修会を開催していたが、研修会でレベルアップした防災士は、防災知識を地元住民へ伝えることを試みましたが、聴講者の確保方法や開催日時・場所の関係で定期的に開催することは容易ではありません。 2、そこで今年から、中区千田町「クリップ ひろしま」に協力を頂き開催することといたしました。日時については定期開催を要望した所、隔月の日曜日に催し会場であるクリップ広島「ナレッジルーム」を利用できることになりました。 会員である防災士が講師を務め、一般市民や防災士の前で講演や講座を開催することで、防災士のスキルアップを図りつつ、市民への防災意識の普及と防災士の認知が向上することを願って企画しました。 2、次に、会場となる「クリップ ひろしま」から、関連企業へ繋がっていくことで地元企業さんと連携し、市民が主体的に進める参加型の防災講座・防災講演会を開催しました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 大きな反響は、初回広島市危機管理室、兵庫県立大学阪本准教授が参加され、初回のあいさつや発表者へのアドバイスを頂いたことから、大変有意義な開催となりました。そのことによって内閣府からヒアリングに來られました。 これは、一般市民が企画し運営する防災講座を定期的を開催する団体は全国には珍しいこと。それによって一層継続することの重要性を痛感しました。 その他、開催の都度、一般市民の参加者が増加し、次第に定着していったものであるが、一層市民の皆様にご認知していただくため広報活動を進める必要性を感じています。 現在、行政は防災士のフォローアップ研修を年2回開催しておられますが、これが私達の「市民防災講座」に代わっていただけたらいいな一とも思っています。また、一般企業からの講座要請も増加し、次年度からは「クリップ ひろしま」との連携を強めていく計画です。 余談ですが、チラシ作成は当ネットワーク会員が製作し、インターネットで印刷したため、予想外に費用が掛からなかったことと、自作のため会員のスキルアップにつながったと思っています。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ① 初回から行政(市危機管理室)と大学准教授の参加があったことと、広島市防災士ネットワーク会員が各方面への働きかけを行い参加者を募った成果があつて、次第に参加者が増えてきた。今後は市内だけでなく広域都市圏の廿日市や坂町・海田町などへ広く参加を募っていききたい。そのためには講師の選定やPR活動を広島広域都市圏レベルまで広げていききたい。 ②その他、clip 広島のご協力とご支援があつて、広く皆さんへ広報していただいた。今後とも市内の各企業さんとも連携を取っていききたい。 ③今年は安芸区や安佐北区を中心に大きな被害が出る西日本大災害が発生したため、市民の防災意識は昨年とは格段に高いレベルの意識を持っておられることがうかがえる。被災地の高い防災意識の継続とそれに影響された地域の防災研修を続けていききたい。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ① 講師として呼び出す自主防災会のリーダーは、そんなに沢山おられないことが判明した。そこで、市内だけでなく広島広域都市圏(海田町、熊野町、府中町、坂町など)の防災リーダーにも呼び掛けて行きたい。 ② このような講座を開催していると、「行きたかった。」「情報がほしい」などの意見が聞こえて來たので、今後はホームページや facebook などを利用して広く広報して行きたい。 ③ 次第に有料として継続できる体制を整えていききたい。例えば企業の経済的支援があってもいいのではないかと考えている。 ④ 記録をちゃんと取り、DVD やビデオなどに記録し、いつでもみんながみられる体制を構築したらどうかと思っている。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	絵本コンシェルジュ隊・地域デビュー！
②実施期間	平成30年4月15日 ～ 平成31年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催・・・絵本たねまき塾 共催・・・公益財団法人広島市文化財団まちづくり市民交流プラザ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 前半活動（実施開始から9月末までの期間） ○ 段原公民館（2人）・仁保公民館（6人）・五月が丘公民館（2人）にて、この事業に関心がある方を集めて、事業の目的、背景、絵本の魅力、社会貢献等について説明をする。 ○ 中山小（8人）・己斐東小（6人）・三入小（4人）にて、この事業に関心がある方を集めて、事業の目的、背景、絵本の魅力、社会貢献等について説明をする。 ○ 公益財団法人広島市文化財団「まちづくり市民交流プラザ」のご支援をいただいて、「絵本の読み聞かせによるボランティアきっかけづくり講座」を持ち30名以上の申込みがあった。（講座第1回目は9月22日・第2回目は29日に実施し、絵本コンシェルジュ隊への参加を促した。） 後半活動（10月1日から翌年の3月31日までの期間） 2回の講座を修了した人から「絵本コンシェルジュ隊」として地域デビューするのはハードルが高すぎたため講座を継続した。自信を付けてデビューしてもらう為に、絵本にかかわる方を講師としてお招きし以下のリレー講座を実施した。 ○ 第3回・・・「絵本の読み聞かせワークショップ」「小道具の制作」「交流会」 ○ 第4回・・・「児童書店主による絵本レクチャー」「交流会」 ○ 第5回・・・「読み聞かせ実践家による実践報告&絵本の選定」「交流会」 ○ 第6回・・・「大学教授による絵本講座☞子どもが好きな絵本等の講話」「交流会」 ○ 第7回・・・「絵本講師による絵本との向き合い方等の講話」「交流会」 ☞ 三入小学校では10人の方が関心を示したので、9月～10月にかけて私が3回訪問して養成講座を開き、絵本コンシェルジュ隊が10名誕生した。「いちょうの会」と名前をつけ、11月1日から読み聞かせ活動を開始した。3月までの5か月間に9回実施し通算約70回1年生から6年生の教室で実施し、全校児童にすばらしい絵本との出会いを繰り広げた。☞ ○ 10月22日（月）に五月が丘公民館で養成講座をひらく。（17名の参加） ○ 11月16日に、日浦公民館で養成講座をひらく（5名の参加） ○ 緑井小の近隣の方が緑井小で活動できるよう学校側に働きかける。（児童館を紹介してもらう） ○ 安北小の近隣の方が安北小で活動できるよう学校側に働きかけ、既存の図書ボに加わる。 ○ 青崎小・仁保小にこの事業を説明し、協力してもらうよう働きかけを行った。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ○ 中山小学校では、関心を持った人が友だちに声をかけ活動を共にしたいという方が2人増えた。仲間を誘いながら周囲の人を巻き込んで仲間の輪が広がっていくと感じた。 ○ まちづくり市民交流プラザにて「絵本の読み聞かせ」でボランティアきっかけ講座を開催したところ30名以上の応募がありこの活動への関心の高さが伺えたと同時に参加者の意欲を感じた。 ○ 三入小では10名が絵本コンシェルジュ隊として地域デビューを果たした。 ○ 中山小では11月に3名が絵本コンシェルジュ隊としてデビューを果たした。 ○ 安北小学校では1月に1名が絵本コンシェルジュ隊としてデビューを果たした。 ○ 緑井小では2月に2名が絵本コンシェルジュ隊としてデビューを果たした。 ○ 五月が丘小では12月に1名が絵本コンシェルジュ隊としてデビューを果たした。 ○ 日浦小学校では12月に1名が絵本コンシェルジュ隊としてデビューを果たした。 ○ 高齢者が絵本の読み聞かせ活動を通して、わずかな時間でも小学生と出会い、触れ合うことで世代間を超えた心の交流が高齢者の生きがいづくりにつながっていると感じた。 ○ デビューした人の実践に立ち会い支援や励ましをすることで、意欲を図ることができた。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ○ 当初、8行政区内に1校以上の小学校で絵本コンシェルジュ隊がデビューするように予定していたが、結果として実際にデビューした人は、4行政区内6校18人に留まった。デビューまでには至らなかったが、その想いを抱えている人は10人以上いる。1小学校で一度に10人の方が初めてデビューされたのが素晴らしい。30人を目標にしていたので達成率は70% ○ すでに読み聞かせ活動をしている人も、この養成講座等に参加してスキルアップしたり、友達を誘ったりするなどで、この事業に係った人は延べ150人以上になるので、たくさんの種まき活動ができた。 ○ 公益財団法人広島市文化財団「まちづくり市民交流プラザ」との協賛で、養成講座への参加者を8行政区内から広く集めることができた。(この活動の趣旨とプラザの思いがマッチング) ○ 初心者が少しでも自信をつけデビューできるようスキルアップのために、絵本にかかわる学びを1ヶ月に一回ずつ様々な視点から合計7回継続して実施した。主体的で深い学びができた。 ○ 6月に中山小学校では3人の方が1年生のクラスで初めて絵本の読み聞かせの実践をした。子ども達の瞳が輝き、一生懸命に聞いてくれて嬉しかった。楽しいのでまたやりたいと言う感想が聞けた。読み聞かせの大切さや意義について理解を得ることができた。 ○ 南区のある小学校で1年に1or2回お話を会を実施されている団体の方へ、定期的に絵本の読み聞かせ活動の実施をしてもらうために直接該当校の図書担当の教諭へその旨をアプローチしたところ、校長よりお断りの電話をもらった。(今はまだ教育的土壌が育っていない。) <学校長に絵本の読み聞かせによる読書教育の重要性をどう認識してもらうかがポイント。>
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ○ 9月に「まちづくり市民交流プラザ」との協賛で実施した「読み聞かせボランティアきっかけづくり」の受講生募集定員30名に対して申込み希望が多くお断りしたので、次回は実施時期をもっと繰り上げると同時に参加者を増やす工夫で、絵本コンシェルジュ隊を増やしたい。 ○ 受講生を集める方法として公民館でチラシ配布や公民館に働きかけても効果が薄かった。また小学校の図書担当の方にアプローチしても難しいことが多かった。そこで小学校のPTAや、社会福祉協議会へ働きかけて受講生を集める工夫をしたい。 ○ 各小学校でのボランティアによる読み聞かせ活動の実態把握に努めると同時に、読み聞かせを必要としている小学校を見出し、その小学校で読み聞かせ隊を養成してデビューしてもらうことが一番効果が発揮されると思うので、この事業の大切さ、重要性を力強く訴えていきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	夢コレクション広島を開催しよう！
②実施期間	2018年6月1日～2018年11月20日
③実施主体	(主催) 共催、後援、連携した機関・団体など) 夢コレクション広島実行委員会 後援 LECT (株) イズミ
④内 容	6月に実行委員を募り、作業、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士、美容師など多職種の実行委員で実行委員会を立ち上げた。 中国新聞に参加者募集を掲載し、チラシを作成し、実行委員の施設利用者を中心に参加者を募った。男性4名 女性10名 計14名参加があった。 事前に五回の研修を実施 会場のレクトさんが、全面協力してくださり、施設内の研修施設を貸してくださった。 10/1 スキンケアレッスン 資生堂 口腔機能レッスン 言語聴覚士 10/15 ウォーキングレッスン ウォーキング講師 ロコモ予防 理学療法士 10/29 スマイルトレーニング 認知症について スマイルトレーナー 作業療法士 11/2 衣装あわせ レクト契約店にて、衣装レンタル 2店舗協力 11/12 リハーサル ウォーキングレッスン 全員が毎回の参加ではないが、それぞれ殆ど参加され、参加者の凝集性が高まり、ファッションショーへの意欲も高まった。 最高齢の93歳の参加者は、代表の牛尾が、毎回送迎をし、5回すべて参加された。 11/18 当日は、実行委員で、お揃いのTシャツを着てしっかり準備をした。 レッドカーペット、音響を業者に依頼し、名古屋、東広島に習って 一般参加者を募るために地元出身のタレント さいねい龍二氏を招き、参加者のエスコートを依頼した。 事前のヘアメイクは、訪問美容のハープヘアさんスタッフが、ボランティアで全面協力してくださった。ハープヘアのスタッフは、事前研修からも参加され、参加者と親しくなられ、ヘアメイクのイメージも作られた様子であった。 14:00 より開始し、トップバッターは93歳の女性。レクト のお店で借りた赤いドレスでイキイキと登場された。皆さん自身のお気に入りの洋服、ヘアメイクで、約400人（レクト 発表）の観客の前を颯爽と歩かれた。 認知症当事者の参加もあり、認知症であることを公表し、認知症があっても適切な援助があれば、地域で幸せに暮らせることをアナウンスして皆さんに知ってもらう機会とした。 トリは、93歳の全講座参加された方にお祝いし、ひい曾孫からお花をプレゼントされ、とても堂々とウォーキングされた。 終了後、ステージを使い、映画「ボケますからよろしくお願いします」の信友直子監督のトークショーを代表の牛尾と、認知症当事者で行い、好評を得た。 その後、実行委員の依頼で、近くの大学の学園祭に出演していた歌手で元介護士の香川裕光さんのライブ（主催はレクト）などと、盛大なイベントとなった。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) レクト発表で400名の参加者があり、買い物客、応援者など非常に沢山の見学者で盛り上がり、大好評であった。 近くの包括地域センターからも見学があり、「来年度あれば、ぜひ参加者を募りたい」などの意見も聞かれた。 参加者からも「参加して良かった」「最初恥ずかしかったけど、皆に応援してもらい嬉しかった」「準備から楽しかった」「来年も出たい」などの感想があった。 また見学者からも「見ていて元気をもらった」「来年は出演したい」などの感想が聞かれた。 TVのニュースで紹介されたり、新聞に取り上げられたりと反響が大きかった。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) このイベントは、 「高齢者の輝く姿は、私達の希望となる」「関わる全ての人が幸せに」をモットーに開催した。参加者や出演者の反応から、上記の目的は達成したと思われる。 しかしながら、歳をとることのネガティブイメージがすぐに変換することは難しいため、このような活動を継続して行なっていくことが必要で、様々な場所、参加者で行っていくことが必要と思われる。 また今回は日程の都合で、学生を巻き込むことができなかったため、来年度は日程調整して学生も巻き込み、多世代交流する。 成功した点とは、会場のLECTの協力で、研修から同じ会場で行え、皆の意欲が向上した点、又、日曜の午後でとても多くの見学者で盛り上がり、ことではなかったか？ 又、新しい龍二さんのエスコートもとても好評で、見学者増の要因と思われる。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今年度は初めての開催だったので、殆ど実行委員の知り合いを中心に参加者を募った。 参加者 次年度は、今回の様子を見て興味を持った方や、迷っていたけど、参加してみよう、と思う方など広報の仕方を考えて、より多くの方に参加してもらえよう、取り組んでいく。 通いの場での紹介、各包括支援センターなどへの協力依頼などをしっかり行っていきたい。 また、今年度、美容系専門学校と連携して開催予定だったが、当日が美容コンテストの日と重なり、学生の参加が困難となった。 次年度は、日程調整を行い、学生の参加を準備段階から一緒に行える様取り組み、多世代交流できるイベントとして、取り組んでいきたい。 又、開催場所も、本通りにレッドカーペットを設営する等、色々と検討して皆が輝ける場を提供していきたい。